

白石 齊 会長

あかいわ「美土里の和」



～うさぎ追いしかの山あ～  
～どんぐりコロコロどんぶりこ～  
此処に歌われているような風景を、現在、私たちの近くで目にするにはできなくなりました。近在の山々も、遠くから眺めていると緑の美しい自然の風景と感じられますが、そこに入ろうとすると、篠竹や羊歯やカズラに覆われて、ジメジメと暗く、湿っていて入口さえみつかりません。このような場所には、林業に携わるような方々は決して近づいてくれません。



着工前H.23年5月頃

でも、小さなスペースでもいい、地面の上に陽光がとどき、木の実が拾え、草花が咲き、茸が生える、そして何よりも子供たちが駆け回って自然に親しめる、そんな場所が欲しい。こんなさやかな願いから、この「あかいわ美土里の和」が誕生しました。

2年前に、赤磐市の桜が丘東の住宅街に隣接する場所に、標高が150mから200m位の山が3kmばかり連なった、市の所有地を借りて会員を募り、持ち慣れない鎌や鋸を手に、まったく素人の私たち市民が作業を開始しました。

マムシやスズメバチを恐れながら藪を切り開き、先ず、頂上までの道作りから始めました。1本の登山道が出来ると、会員たちの間に小さいながら達成感が生まれました。

市民の方々に自然を少しでも理解して頂くために、講師を招いての「自然観察会」を開きました。次には、岡山理科大学学長の波田善夫先生を招いて「シンポジウム」を開きました。

その後、登山道も2つのルートが加わり、少しずつですが樹林の間に日差しが届く場所が増えてきました。会員たちも、この山に対して親しみを感じて来たのでしょう、元旦には「初日の出を見る会」や、「ツツジのお花見の会」なども開催されました。

この時期にネットワークの助成を受けることができました。その後は、ハイキングコースのルートの延長を主にしながらも「自然観察会」は定期的に続け、「親子で動植物を描く」ワークショップや、そこに生えている植物を使った「木工工作」や「お茶づくり」「紙すき体験」「草木染め体験」「キノコ汁作り」など矢次早に開催して来ました。



H.24年7月スケッチの集い

そして第2回目のシンポジウムには、就実大学理事長の千葉喬三先生をメインゲストに迎えて「里山今昔」と題した森の歴史とも云うべき「植物遷移」について丁寧に教えて戴きました。そして、理性が発達する前に(大体10歳頃まで)感性を養うことの大切さ、それには、何よりも「自然と親しむことが大切である」と云うお話などなど学ぶべきことの多さとともに、生物の多様性の大切さ、そして、人も多様でさまざまな人材がある社会こそ健全な社会であることを学びました。



H.25年3月現在の里山

そして嬉しい事に、5月31日には桜が丘保育園の園児たちが健脚遠足で、団体での初登山が実行されます。

美土里の和では、この時のシンポジウムの講演、及び討議の内容を冊子にまとめましたので、関心のある方は「あかいわ美土里の和」事務局まで申し出て下さい。

白石 齊

陶芸家 啖啄工房  
あかいわ美土里の和会長  
工悦邑 (芸術家村) 村長